

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校
1 前年度 評価結果の概要	学校教育目標「西中一心～夢の根っこを育てる～」のもと、①「生徒の心を耕す生徒指導体制の充実」と②「自ら学ぶ力の育成」を重点目標として全職員で取り組み、概ね達成できた。①については、コロナ禍にあって学校行事や体験活動に制限がかかり、生徒自身が自分自身を見つめ、新たな自分を発見する機会が減ったことは否めない。今年度は昨年度以上に工夫を重ね、知恵を出し合い、新しい形の体験活動を模索したり、一つ一つの行事や取組にしっかりとした目標をもち、活動を充実させていきたい。前年度の大きな成果として、生徒指導、教育相談、特別支援教育にかかる委員会を毎週開催し、連絡会で全職員が共通理解を図る体制が確立したことが挙げられる。今年度も継続し、全職員で生徒指導体制を充実していく。②については、県学力状況調査の対県平均比において、5教科全て昨年度を上回ることができた。今年度も校内研究体制を充実させるとともに、今年度委嘱された学力向上推進事業を良い機会と捉え、全職員で研究に取り組み、主体的に学び続ける生徒の育成を目指していく。
2 学校教育目標	西中一心～夢の根っこを育てる～ ・それぞれの生徒の「夢」を実現させるための「根っこ」を育てる教育を、全校一丸となって推進する。 ・それぞれの生徒が、自分と他人を大切にし、お互いに認め合い・高めあって、ともに成長できる学校を作る。

3 本年度の重点目標	① 生徒の心を耕す生徒指導体制の充実 ② 自ら学ぶ力の育成
------------	----------------------------------

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○生徒の基礎学力の向上	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。 ○12月実施の県学習状況調査において、5教科全てにおいて昨年度の正答率を上回る。	・全ての教科で共通した取組や各教科での個別の取組を明らかにし、学期毎にマイプランの成果指標の達成を目指す。 ・学習規律の確立とともに、支持的風土の醸成と学び合う集団づくりを展開する。 ・校内研究や授業研究会を通して、授業構成の見直しや共通実践を進める。 ・生徒一人一人にとって最適な学習を行うことができるよう、GIGAスクール構想によるICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事や体験活動、奉仕活動を通して、自分が成長していると回答する生徒を90%以上にする。	・体験活動や奉仕活動を通して自己を見つめ直し、心の変化に気づかせる指導を充実させる。 ・学年全体で授業に関わるような携帯を取り、生徒の成長や変容を見取りながら関わりを深める。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○人権・同和教育に関する取組の充実	○いじめ防止等(いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、関係職員や担任・保護者と連携した組織的対応ができていると回答した教員を100%にする。 ○「西中人権・同和教育たより」を毎学期発行し、生徒の活動の様子を保護者に伝える。 ○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・1月1回、生活・いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見と組織的対応に努める。 ・生徒指導委員会や連絡会を通して、事案についての情報を共有し、一貫した指導を行う。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。 ・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・キャリア・パスポートを通して自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。						
	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると回答する生徒を85%以上にする。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を95%以上にする。	・技術・家庭や保健体育など関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけた指導に努め、食事の大切さを再認識させる。 ・「日刊給食たより」を用い、昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。						
	○自分の健康や体作りについて意識を高め、生き生きと部活動等に取り組む	○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒を、昨年度の75%より増やす。	・部活動の顧問を複数体制とし、臨場指導に努める。 ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、学校だより等で周知する。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的に業務遂行に努めるようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組む。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。						
	○教職員の資質向上と教職員集団の組織力の構築	○それぞれのライフステージに応じ、教職員がペアやチームを組み、互いに「学び合う」「育てる」「支え合う」意識のもと教育活動に努めようとする教職員の割合を85%以上にする。	・校務分掌や学校行事等でベテラン、中堅、若手教師がチームを組み、互いに教育技術を伝承し合うことで、各自の資質・能力の更なる育成を目指し、教職員集団の組織力向上を図る。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上にする。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上にする。	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年だけで保護者等に知らせる。 ・年に2回、鳥栖市小・中学校のコーディネーターが集まり、コロナ禍での取組における「各学校の工夫」について共有する。 ・学年全体で授業に関わる体制を作り、魅力的な授業づくりを行う。		
○特別支援教育の充実	○特別支援教育部会の定例化と教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと、関係職員を中心として特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援に関する専門性が向上した教員を80%以上にする。	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・講師を招き、合理的配慮をどのように学級経営へ生かすかについて、全職員を対象とした校内研修を実施する。						
○生徒指導の充実	○生徒支援体制の充実と不登校対策の推進	○警察や児童相談所との連絡を、月に1回以上は行い、さらにSSWや福祉方面との情報共有を密に行う。 ○教育相談、別室における学校生活支援員を中心に、「つなぐ」「働きかける」をキーワードに不登校の生徒や家庭に働きかける。	・原則、毎週、生徒指導委員会と全職員参加の連絡会を開き、生徒や家庭に関する情報共有、及び複数の職員で対応にあたることを徹底する。 ・「電話作戦」や「担任＋1の家庭訪問」「別室登校」など本人・保護者と話をする機会を積極的につくり、チームで対応する。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。						

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--